

デイサービスセンター 伊勢マリンホーム旭ヶ丘

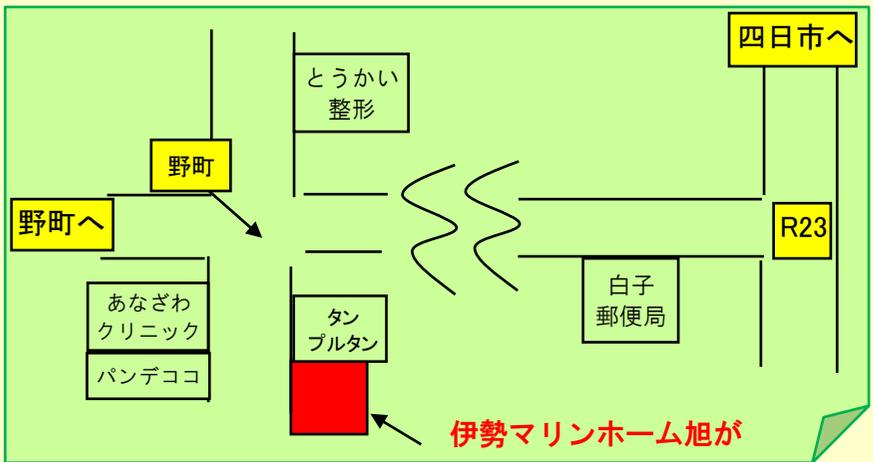


私たち伊勢マリンホーム旭ヶ丘ではデイサービスは在宅生活を充実するための訓練の場であると考えています。
 そのために重点的に取り組んでいることが以下の3つの事です。

- 1 **生活リハビリ**
- 2 **機能訓練**
- 3 **個別計画**

目指す所は **在宅生活の向上** です！！

利用料金						
介護予防 自己負担分	基本額(月額)	要支援1	¥1,917			
		要支援2	¥3,926			
	総合事業(1回)	事業対象者・要支援1	1回¥418円	上限¥2032		
		要支援2	1回¥430円	上限¥3811		
	選択メニュー	運動器機能向上加算	¥247			
		科学的介護推進体制加算	¥44			
介護保険 自己負担分	基本額(1回)		7~8時間	6~7時間	5~6時間	4~5時間
		要介護1	¥745	¥663	¥648	¥449
		要介護2	¥874	¥779	¥761	¥510
		要介護3	¥1,010	¥895	¥874	¥574
		要介護4	¥1,144	¥1,011	¥988	¥637
	要介護5	¥1,280	¥1,127	¥1,101	¥700	
	入浴介助加算	I ¥44 / II ¥60 (基本I どちらか選択)				
個別機能訓練加算	¥62					
科学的介護推進体制加算	¥44(月額)					
実費	昼食代	¥650				
	喫茶代	1杯 ¥50				
備考	時間は、基本7~8時間に対応しております 料金にはサービス提供体制加算、介護職員処遇改善加算、介特別処遇改善加算、地域加算が含まれております 個人情報については、個人情報保護法に基づき適切に取り扱います					



住所 〒510-0212 鈴鹿市中旭ヶ丘1丁目11-8
 電話 059-387-2020
 FAX 059-387-1811

お気軽にお問合せ下さい
 担当: 加藤・水谷・乙部

生活リハビリ

私たちが考える生活リハビリとは、自宅でいかに生活を継続できるよう支援するかという考え方です。ご利用者の前向きな気持ちを引き出し、ご自分の事はご自分でするという事を支援しています。その為に、私たちは、ご自分で出来る事やご利用者へのコーチングなどを話し合ってきました。

歩行

手引き歩行はしません。個人に合った歩行具を使用し、自分で歩く力を引き出します。車椅子の方も移動時以外は椅子に座って頂いています。



ご自分の事は ご自分で

連絡袋の出し入れ、靴の履き換え、帰り時間の確認、お茶つき、靴の管理、リハビリカードを使用した本日のリハビリ内容の確認、脳トレを自分で選んで実施するなど、様々な事に取り組まれています。



サービス内容

体制

事業所番号(介護):2470301306
事業所番号(予防):24A0301002
休業日:1/1~1/3、日曜日
定員:30名
事業所規模:通常規模
営業時間:8:30~17:30
サービス提供時間:
8:45~16:30

休日の対応

土・日・祝日等、病院、居宅介護支援事業所が休みの場合、サービス担当者会議等にて事前に打ち合わせを行い対応を決め、万が一の時に備えます。

設備・その他

ベッド2床 経管栄養可
*但し、ベッドの空き状況による
機械浴完備
散髪サービス(有料)
買い物支援(隔週)
※コロナウイルスの影響で休止中
タッチアップなどの福祉用具配備

送迎範囲

旭が丘・野町・桜島・安塚・玉垣・白子・寺家・稻生・磯山・郡山・住吉 等
平田・神戸・天名地区はご相談下さい

介護予防加算

運動器機能向上加算
科学的介護推進体制加算
*上記加算は選択メニュー
サービス提供体制強化加算
要支援1: I (88単位)
要支援2: I (176単位)
介護職員処遇改善加算 I 5.9%
特定処遇改善加算 1.2%

要介護加算

入浴介助加算 I
個別機能訓練加算 Iイ
個別機能訓練加算 II
科学的介護推進体制加算
サービス提供体制強化加算 Iロ 22単位
介護職員処遇改善加算 I 5.9%
特定処遇改善加算 1.2%

専門職員の配

社会福祉士 1名
介護福祉士 6名
看護師 5名(毎日2名以上配置)

個別計画

通所介護計画書

サービス内容を箇条書きにし、具体的な介護方法を明記しています。計画は利用者の状態に即対応できるよう、3ヶ月に1回更新しています。その計画に従って、サービス内容が実施できたか利用日ごとに評価し、実施出来ない事が重なった場合は、3か月を待たずに計画の見直しをします。計画の更新または変更内容は、月に1回、職員会議で読み合わせをし、すべての職員が同じケアが出来るよう統一をはかっています。

サービス内容		介護内容	評価														
No.	内容		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
S-1	健康チェック	季節時にはバイタルチェックを実施し、本人からの聞き取り等と共にその日の体調を把握する。異常がある場合は忘れずに伝える。	〇	〇	〇												
S-2	家族との連絡	ご利用者の様子は連絡帳に記入し、家族にも読んで頂く。本人が見ると心病的に家にされるような事は別途口頭での報告とする。	〇	〇	〇												
S-3	交流の実施	耳が聞こえにくい、周囲の方からの話が聞こえにくい場合は、職員が聞こえる等の配慮をする。	〇	〇	〇												
S-4	レク参加	レクセッションには参加を促し、他の利用者との交流の機会、体を動かす機会とする。初めてのゲーム等のルールは、耳元で教くわかるように話かける。	〇	〇	×												
S-5	傾聴	SSの前には疑問を持つ事があるので話を聞き取り、他の利用者との関係でも、不快な事があったり不安な事があったりするので、話があった場合は何らかの対応を行うこと。	〇	〇	〇												
S-6	余暇活動	空いている時間には、テーブルの方とのグループ活動、脳トレやゲームなど興味を持って活動への参加を促す。	〇	〇	〇												
S-7	体操	遠慮を撤回した上肢を中心とした体操へ参加して頂き、自宅での布団の上げ下げが継続できる可動域、筋力の維持を図る。	〇	〇	〇												
S-8	個別機能訓練	在宅から外出する場合に、安全に往来できるように具体的な目標を設定し、訓練を実施し、IADL面での維持を図る。	〇	〇	〇												
S-9	生活リハビリ	生活リハビリは、利用者ごとの生活リズムや生活習慣に合わせて実施する。	〇	〇	〇												

具体的なプラン内容

計画を毎利用時に評価

3か月毎の更新時に、利用者の自立を引き出せるようなケア内容に徐々に変更していきます。

具体的ニーズ及び目標	サービス内容	介護内容
好きなことに取り組みたい	趣味活動	余暇時には好きな塗り絵に取り組めるよう、材料を提供する
好きなことに取り組みたい	趣味活動	余暇時間では短時間で取り組める塗り絵以外の様々な種類の材料を提供して好みを探る
好きなことに取り組みたい	趣味活動	余暇時には興味を持って取り組めるプリント類を自分で取りに行き、選び取り組んでもらう

今後は・・・

- ①食事やセルフリハビリを含めたさらなる生活リハビリ環境の整備
- ②地域との交流(現在、旭ヶ丘民生委員と検討中)等を考えております。

食事

机拭きや食べた後の下膳をしています。下膳が難しい方もシルパーカーで運ぶ等出来る範囲で頑張っています。



入浴

着替えは台を使用して靴下をはくなど、工夫しながらご自分で出来るよう頑張っています。ニーズによって個浴(自宅サイズの浴槽)での対応も行っています。



個別機能訓練Ⅱ

個別機能訓練加算は『Ⅱ』を算定しています。自宅を訪問して住宅環境とご利用者の実際の動作を確認し、それを復元する形で、具体的な動作の反復練習を行います。生活に密着した目標を掲げる事がやる気への近道だと考えています。訓練内容は段階的に計画を作成し、少しずつステップアップ出来る内容となっています。

家事動作目標例：
洗濯動作の維持
食器片づけの維持等

洗濯ものを取り出す・干す・とりこむ・運ぶ・たたむ・しまう、という段階に分け、動作を反復して行います。



生活動作目標例： 起居動作の維持 排泄動作の維持等



夜間に安全にトイレに行ける事を目標とし、起き上がりの練習をしています。ベットの角度は自宅のものに合わせて行います。

一連の排泄動作を分け、トイレに入ったときに見守りながら、不明になった動作を指示し、定着を目指します

トイレの動作

- ① トイレの電気をつける
- ② 便器に座る向きを確認する
- ③ ズボン・パンツを下す
- ④ 座る
- ⑤ ペーパーを切り取る
- ⑥ ふき取る
- ⑦ ペーパーを便器に捨てる
- ⑧ ズボン・パンツを上げる
- ⑨ 水を流す
- ⑩ 手を洗う
- ⑪ トイレの電気を消す

IADL動作目標例： 危険予測 情報処理能力の向上



1人で安全に外出できることを目標に、信号のある横断歩道を渡る練習をしています。

視野が広くなり安全に横断できるようになりました。

一人で外出中に起こる不意の出来事に瞬時に対応できるよう、ボールを上に向けて、キャッチしながら歩くという練習をしています。情報処理能力の向上を目指しています。



コミュニケーション能力目標例： 文章作成 発語練習



家族との会話が増えることを目標に訓練を行っています。はい・いいえだけではなく頭で考えたことを言葉で発声する事を目標に練習しています。